

のだネット通信



中核地域生活支援センター のだネット（千葉県委託事業・野田健康福祉圏域）
TEL 04-7127-5366 / FAX 04-7127-5367
〒270-0235 野田市尾崎840-32 / E-mail noda-net.kusunoki@nifty.com
<http://homepage2.nifty.com/noda-net/>

「サポーター研修会・のだ」のご案内

今回は、平成21年7月15日(水)中央公民館講堂にて開催されました。「園や施設での支援」をテーマに支援の具体的なお話がありました。

<次回>

平成21年9月16日(水)18:30~20:30

会場:野田市総合福祉会館 3階 サポートセンター

※前回と会場が違いますのでご注意ください！！

講師:田熊 立 先生

(発達障害者支援センター・CAS 副センター長)



<今後の開催予定>

奇数月の第3水曜日。第4回:11月18日

講師は各回「田熊先生」です。会場はその都度お知らせいたします。

■お申し込み・お問い合わせはのだネットまで

平成21年度 中核地域生活支援センター運営委員会が開催されました。

平成21年6月25日(木)13時半より野田健康福祉センターにて開催されました。

中核地域生活支援センターと障害者グループホーム支援ワーカーからの事業報告と事業計画が中心でした。

中核地域生活支援センターについて、県では市町村との意見交換会が開催されましたが、70%の地域で「必要」と感じており、生活支援や困難事例に対応して欲しいと要望していることがわかりました。

野田市でも手帳の所持や障害の有無に関わらず、求職活動や経済的な問題で困難を抱えている方が多くなっている実感があります。関係機関の皆さんと連携して支援をしていきたいと考えています。



こころネット・ハートゆう 講演会「こころの話…うつについて」

今年度、精神障害者関連施設や支援団体のネットワーク化を図ろうと「こころネット・ハートゆう」を立ち上げました。まずは啓発活動として講演会を開催しました。

平成21年7月4日(土)13時より、野田市役所8階大会議室にて、野田市長や教育委員会の方、障がい者団体連絡会の代表の方にもご臨席頂き、参加者も160名と大勢の方に来ていただくことができました。

前半に岡田病院院長齊藤幹郎先生より「うつ」についての講演があり、後半は「齊藤先生を囲んでの質問コーナー」「ザ・トライの実践(6月の広報誌で紹介した、当事者や家族のおしゃべり会)」「社会資源の紹介」と様々な企画を用意しました。「社会資源の紹介」では市内の地域活動支援センターをはじめ、障害のある人もない人も共に暮らしやすい千葉県づくり条例の広域専門指導員の方や、市役所から「障害者総合相談・就労支援センター」の方々にもご協力頂きました。広報不足と企画の構成により、社会資源を見て回る方が少ないことが残念でしたが、次からの課題としたいと思います。

先生を囲んでの質問コーナーに50名程、ザトライの方に20名程の方が参加され、同じ部屋での開催に無理があったように思います。沢山の反省点を踏まえ、次回に活かして行ければと考えています。

【参加団体】

- ・岡田病院家族会さくらの友の会
- ・NPO法人枝の会
- ・NPO法人子育てネットワークゆっく
- ・NPO法人メンタルサポート野田そよかぜ
- ・野田圏域千葉県広域専門指導員
- ・中核地域生活支援センター・のだネット



「SOSファイル」をご存じですか？

野田市手をつなぐ親の会が作成しました。

「親なきあと」や「親の緊急事態発生時」に障害を持っている本人が困らないように、安心して引き継げるようにするものです。

全部で45枚あり、記入するのは大変ですが、親が元気なうちに書くことで成長の記録となり、また、進路選択や年金申請時にも役立つことでしょう。将来を見据えた大切な引き継ぎ書になります。

1冊500円で販売しています。(親の会会員は無料)

問合せ先:野田市役所内つくしんぼ

TEL:04-7125-1111

(内線3173)





コーディネーター便り



平成21年7月16日、17日に「第41回関東知的障害福祉関係者職員研究大会」に参加してきました。1日目は「障害者自立支援法のさらなる見直しを求める第4回東京大集会」と合同で行われ、当事者や家族の意見発表や議員の方々の考えを聞くことができました。最後に以下の7点が柱となったアピール文が採択されました。

1. 知的障害者・発達障害者の特性にあった支援が受けられるようにしてください。
2. 知的障害者・発達障害者に合う支援区分にしてください。
3. 利用者負担を抜本的に軽減してください。
4. サービス単価を抜本的に見直してください。
5. 障害児である前に、次世代を担う子どもとしての支援を充実して下さい。
6. 社会保障制度を充実し安心して暮らせる仕組みを作ってください。
7. 地域の生活を充実してください。

2日目は「ライフステージに応じた支援」をテーマにした分科会に参加しました。講師は、長野県相談支援アドバイザーの福岡寿先生でした。

先生が、入所施設で働いていた当初、利用者のニーズより親のニーズで働いていたが、地域に出てから変わってきたということでした。

地域に出てからは、保育園へもよく訪問していたことから、一貫した支援についても考えるようになり、現在は「相談支援専門員」「療育コーディネーター」「臨床発達心理士」「保健師」「保育士」「市教育委員会就学相談担当」とチームを組んで療育、就学指導、学校との連携を中心に活動されているとのことでした。保育園で構造化されたことがそのまま学校へもつながるようになり、成果は大きいようでした。

また、地域を変えていくためには、利用者や家族の要望を様々な機関と課題を共有化し制度を整えていく必要があることを教えて頂きました。

